

令和3年度研究計画書

令和3年 4月9日

研究種類	【富士山研究】		
研究課題	富士山における歴史史料と火山噴出物の照合による噴火実態の解明		
研究代表者	馬場 章 (富士山火山防災研究センター)		
研究期間	令和3年度 ~ 5年度 (3カ年)		
共同研究者	山本 真也 (富士山火山防災研究センター) 内山 高 (富士山火山防災研究センター) 小笠原 輝 (環境共生科) 堀内 亨 (山梨県立富士山世界遺産センター) 小林 淳 (静岡県富士山世界遺産センター)	研究協力者	畠山 唯達 (岡山理科大学) 篠原 武 (富士吉田市) 村石 真澄 (富士河口湖町) 杉本 悠樹 (富士河口湖町)
研究目的		研究目標	
富士山の火山活動史を歴史・考古・民俗の研究成果を踏まえて検証し、歴史史料に記述された噴火実態を明らかにする。		1.富士山の火山活動史と歴史年表を統合する。 2.山中湖を形成した火山活動を明らかにする。 3.降下火砕物による被災実態を明らかにする。	
全体の研究計画	<p>1. 富士山の火山活動史と歴史年表の統合<令和3~5年度></p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 室道の経路特定(担当:堀内亨・馬場) ※山梨県富士山世界遺産センターとの協業 <input type="checkbox"/> 土器編年の科学的検証(担当:馬場、研究協力者:篠原・杉本・畠山) <input type="checkbox"/> 富士北麓に分布する溶岩流の噴火年代(担当:馬場・堀内亨) <p>2. 山中湖を形成した火山活動<令和3~4年度></p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 山中湖の形成年代と環境変遷の解明 (担当:山本・内山)。 <input type="checkbox"/> 梨ヶ原扇状地の地史の解明(担当:内山・馬場) <p>3. 降下火砕物による被災実態<令和3~5年度></p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> テフラ層序の検証(担当:小林・馬場) ※静岡県富士山世界遺産センターとの共同研究 <input type="checkbox"/> 宝永噴火に関する歴史史料や絵図の体系化(担当:小笠原・堀内亨・馬場) 		
前年度研究計画及び研究成果	新規研究課題		
実施内容	<p>令和3年度は、各研究目標を達成するために以下の項目を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 剣丸尾第1溶岩流から御室浅間神社奥社に至る室道(巡礼路)に関する野外調査 ・ 考古遺跡から出土した土器片及び古地磁気方位測定済みの溶岩の古地磁気強度測定 ・ 山中湖畔においてジオスライサーなどを用いた試掘調査 ・ 山中湖の表層堆積物から¹⁴C年代測定及び環境指標となる化合物の分析 ・ 富士南東麓における降下火砕物の層厚分布図の作成 ・ 宝永噴火の被災状況が記録されている歴史史料の収集及び翻刻 		
期待される研究成果	<p>◎富士山の火山活動史と歴史年表とを検証することにより、歴史時代(西暦781年以降)噴火の噴火実態が詳細に明らかとなる。</p> <p>◎山中湖の成立年代や環境変遷が明らかとなり、富士北東麓の地史に関する基礎資料が得られる。</p> <p>◎降下火砕物の層序や伝承された歴史史料を再評価することで、御厨地域の被災実態が把握でき、地域防災の最適化に貢献する。</p> <p>◎世界文化遺産富士山の文化的・自然科学的価値に係る知見が充実し、山梨県・静岡県で実施している保全の取り組み「下方斜面における巡礼路の特定」や県民・来訪者への「情報提供」に活用されることが期待される。</p>		